

ISO/TC 8(船舶及び海洋技術専門委員会)直属のWG担当分

議長:Mr. Yanqing Li(中国)、幹事国(中国)

担当	担当WG	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
TC 8	WG 12	ISO 3725:2023	Ships and marine technology — Aquatic nuisance species — Methods for evaluating the performance of compliance monitoring devices for ballast water discharges	船舶及び海洋技術—バラスト水のサンプリング—遵守監視装置の性能評価手法	バラスト水管理条約が定める排出基準を遵守していることを判断するために、バラスト水の船上排出を迅速に評価するように設計されたコンプライアンスモニタリング装置に適用できるプロトコルについて取り纏めている。コンプライアンスモニタリング装置は、バラスト水管理(BWM)条約で定義されている1つまたはそれ以上の生物または生物サイズ部類を対象とする場合がある。 【米国主導】	2023.07	—
TC 8 SC 6から移行	WG 10	ISO/PRF 4891	Ships and marine technology — Interoperability of smart applications for ships	船舶及び海洋技術—船舶用スマートアプリケーションの相互運用性の審議	この規格は、スマートアプリケーションの操作上の必要要件及び性能要件を取り纏めたもの【ドイツ主導】。この規格で定めるスマートアプリケーションは、人間(ヒューマンマシンインターフェイス/スマートフォン)、IOT/センサー、及び第三者システムを通じて、書類提出、プロセス管理、接続、及びデータ収集に適用でき、ISO 21745「電子ログブッカー技術仕様及び操作上の必要要件」(パナマが主導の形をとりつつ、実質日本が作成したISO規格)を補足する規格でもあるとしている。 2020年9月開催のISO/TC8/SC6/WG18会議での審議の結果、この提案でのスマートログブッカーとは、モバイル又は固定機器(データサーバー)で電子ログブッカーデータと双方向でデータのやり取りができるほか、船内機器からも情報収集が可能で(機器→スマートログブッカーの一方)、収集したデータを船橋又は陸上に取組みであることが分かった。 2021年9月14日の国際会議の結果、TC8/SC6からTC8へ移管することになり、TC8およびTC8/SC6において、2021年11月9日を締切とした移管に向けた投票が実施され、TC8への移管が承認された。	PRF登録 2024.02.12	—
TC 8	WG 11	ISO/DIS 7613	Ships and marine technology -Hopper Dredger- Trailing suction tube position monitoring system	船舶及び海洋技術—ドラッグサクソン浚渫船用トレーリングサクソンチューブの位置監視システム	本規格は、ドラッグサクソン浚渫船用トレーリングサクソンチューブ位置監視システムの設計、製造、変更および承認に適用するための設置要件、インタフェース要件、技術要件、試験方法などを取り纏めたもの【中国主導】。	DIS投票承認 2024.06.17	—
TC 8	8933WG	ISO/FDIS 8933-1	Ships and marine technology — Energy efficiency — Part 1: Energy efficiency of individual maritime components	船舶及び海洋技術—エネルギー効率—第1部:個々の船用部品エネルギー効率	本規格は、個々の船用部品のエネルギー効率を評価するための一般的な測定及び計算方法について取り纏めたもの【デンマーク主導】。 ISO 8933-2を優先して審議が行われていたが、第5回のWG会議から、今後の方向性が提案された。WGは、素案の作成に先立ち、船上に搭載されている船用部品のうち、エネルギーの消費に特に影響するものをリスト化し、簡潔な情報を網羅した規格とすることで合意した。 日本は、2023年7月11日を期限として実施されたCD照会において、国内の船用機械メーカーから提出された意見3点を提出した。これらの意見は、WGの審議において、概ね反映された。 3月7日を期限としたDIS投票は、反対無く承認された。日本は、「賛成(意見付き)」回答を提出した。 現在、FDIS投票の準備中。	DIS投票承認 2024.03.07	—
TC 8	8933WG	ISO 8933-2	Ships and marine technology — Energy efficiency — Part 2: Energy efficiency of maritime functional units	船舶及び海洋技術—エネルギー効率—第2部:個々の船用部品の機能ユニットのエネルギー効率	本規格は、機能ユニットと呼ばれるシステムに接続された複数の部品のエネルギー効率を評価するための一般的な測定及び計算方法について取り纏めたもの【デンマーク主導】。 圧力及び流量ユニット、照明ユニット、暖房・冷房ユニット、機械ユニット、及び推進ユニットの5つのカテゴリーに分けて、審議を進めている。また、上記のカテゴリーに属するシステムを列挙し、各システムのエネルギー効率の測定及び計算手法の規定に関する審議を行い、日本は船用機械メーカー4社から提出された意見をCD照会で提出した。 日本は、12月7日期限で行われたDIS投票にて、CD照会で提出した意見の反映度合いの是正を求めたうえで、「賛成」回答を提出した。本投票は、賛成多数で承認された。 日本は、7月1日期限で行われたFDIS投票に対して、DIS投票において提出した燃料セルに関する図式に関する意見が正しく修正されていなかったことを指摘するため、「賛成(意見付き)」回答を提出した。	FDIS投票承認 2024.07.01	—

TC 8	WG 12	ISO 11711-1:2019	Ships and marine technology -- Aquatic Nuisance Species -- Part 1: Ballast water discharge sample port	船舶及び海洋技術－水棲有害生物種－第1部：バラスト水排出サンプリング装置	本規格は、バラスト水を排水する前に排水パイプから代表サンプルを得るために要求されるサンプルポートの設計および搭載に関する指針を取り纏めている。	2019.05	—
TC 8	WG 12	ISO 11711-2:2022	Ships and marine technology -- Ballast water sampling and analysis -- Part 2: Ballast water sample collection and handling	船舶及び海洋技術－バラスト水サンプリング及び分析－第2部：バラスト水サンプルの収集及び取扱い	船上におけるバラスト水のサンプル収集及び加工に必要なサンプリング装置の選定及び使用に関するガイダンス。サンプルプローブ、代表的なサンプリングの制約を満足するための制御能力を有するサンプル収集装置の設計に関する規定も含む。	2022.09	—
TC8 SC11から移行	旧TC 8/SC 10から移管。担当WG未定。	ISO 15849:2001	Ships and marine technology -- Guidelines for implementation of a fleet management system network	船舶及び海洋技術－フリートマネジメントシステムネットワークの実施のための指針	船主及びフリートマネジメントシステム(FMS)ネットワーク・コンピュータ・サービスの運用者に、その選定と実施についての概要と、実施の際の指針について取り纏めたもの。この規格には次のものが含まれている。 a)広域ネットワーク、データ伝送サービス及び共通のデータベース設備を含む、一般的インフラストラクチャーに関する指針 b)アプリケーションプログラムへのサービスを含む、船上設備に関する指針	2001.11.01	JIS F 0075:2003 (IDT)
TC8 SC11から移行	旧TC 8/SC 10から移管。担当WG未定。	ISO 15849:2001/Amd 1:2003	同上	ISO 15849:2001 追補1:2003	ISO 15849に規定されているSITP (Ship Information Technology Platform) 及びLITP (Land-based Information Platform) に適用される場合のアプリケーション・プログラム・インターフェースの設計仕様書の例を附属書Aとして追加したもの。	2003.09.01	同上
TC 8	WG 10	ISO/DIS 18131	Ships and marine technology -- General requirements for publish-subscribe architecture on ship-shore data communication	船舶及び海洋技術－パブリッシュ・サブスクライブ方式の船陸間同期通信の一般要件	この文書は、船陸間データ通信におけるパブリッシュ/サブスクライブ方式に関する要件を取り纏めており、造船業界、海運会社、機器メーカー、港湾および陸上サービスプロバイダーなどの利害関係者がパブリッシュ/サブスクライブ方式で船陸間通信を行うことを目的としている。【韓国主導】 この文書では以下を取り纏めている。 －ブローカー、パブリッシャー、サブスクライバーの役割の定義 －クラウド環境におけるマルチテナンシーベースのデータ管理システムの定義 －パブリッシュ・サブスクライブ方式の一般要件 －データの機密性、完全性、可用性を確保するためのセキュリティ要件 －データの命名規則とデータ構造の設定	CD照会終了 2023.12.05	
TC8	WG 11	ISO 20661:2020	Ships and marine technology -- Cutter suction dredger supervisory and control systems Cutter dredger supervisory and control system	船舶及び海洋技術－カッターサクソン浚渫設備(システム)の標準化	カッターサクソン浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国主導】	2020.01	—
TC8	WG 11	ISO 20662:2020	Ships and marine technology -- Hopper dredger supervisory and control systems	船舶及び海洋技術－ドラッグ浚渫設備(システム)の標準化	ドラッグ浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国主導】	2020.01	—
TC8	WG 11	ISO 20663:2020	Ships and marine technology -- Grab dredger supervisory and control systems	船舶及び海洋技術－グラブ(掴上げ)浚渫設備(システム)の標準化	グラブ(掴上げ)浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国主導】	2020.01	—
TC 8	WG 12	ISO 23152:2021	Ultraviolet Ballast Water Management System-- Mathematical Modeling and Calculations on Scaling -- RANS-DO Modeling	紫外線バラスト水管理システム－スケールリングに関する数学的モデリングおよび計算－RANS-DOモデリング	紫外線バラスト水管理システム(UVBWMS)のスケールリングに関するRANS-DOモデリングの計算方法を取り纏めたもの。数学的モデリングおよび計算は、システム性能に影響を与える可能性のあるパラメータがベースユニットおよびスケールユニットの間で等しくなるようにしている。スケールリングされたユニットの設計は、潜在的にベースユニットの性能要件を満たすことができるとしている。 また、本規格はUVBWMS上の離散モデルのスケールリングに適用され、ベースユニットとスケールリングユニットの組み合わせには適用されないとしている。	2021.07	—
TC 8	WG 12	ISO 23314-2:2021	Ballast water management systems (BWMS) - Risk assessment - Part 2: BWMS using electrolytic methods	バラスト水管理システム－リスク評価及び低減－第2部：電解質手法を用いたBMWS	ISO12100に従い電解質手法を用いたBWMSのリスク評価およびリスク低減を実施する際のガイダンス。ハザードの同定およびリスクの予測及び評価のプロセスの手順や例を示す。	2021.11	—
TC 8	WG 12	ISO 23780-1:2023	Performance test procedure of continuous monitoring TRO sensor in ship use-Part 1: DPD sensors	TRO(バラスト水中の総残留オキシダント)常時監視センサの性能試験手順－第1部：DPDセンサー方式	この規格は、船舶で用いられるTRO(バラスト水中の総残留オキシダント)を常時監視するセンサの性能試験手順を取り纏めたもの。	2023.05	—
TC 8	WG 4	ISO 23799:2024	Ships and marine technology -- Assessment of onboard cyber safety	船舶及び海洋技術－船上サイバーセキュリティの評価	船上でのサイバーセキュリティリスクを評価するための一般的な方法を提供する。それは無線通信と陸上ベースのシステムを除く、船上システム内のネットワーク接続に取り纏めたもの。この規格は、①用語と定義、②船上のサイバーリスク特定、③サイバー資産評価、④サイバーリスク分析基準、⑤規制措置識別、⑥評価の割り当て、から構成される【中国主導】。	2024.01	—

TC 8	WG 4	ISO 23806:2022	Ships and Marine Technology -- Cyber safety	船舶及び海洋技術－サイバーセキュリティ	この規格は、リスク評価手法によるサイバー安全要件を定めたものであり、SMS (Safety Management System) (ISM Code [国際安全管理コード] で定められている要件を満たす安全管理システム)に組み込んで運用されることを想定したものである。船舶管理者に求められているSMSの策定・実施・維持の活動に併せて運用されることで、サイバー安全の継続的な改善が図られるとしている【英国主導】。 これまでの国際審議の結果、NISTフレームワークを基礎として書き直すことになっている。国内での検討はこの書き直しを終了してから行う予定であったが、NISTフレームワークへの書き直しをすることなく、CD省略投票が開始された。ISO様式にも沿っていないことから、NISTフレームワークへの書き直し及びISO様式に基づく修正を求め、日本は「反対」をした。しかし、DIS投票では、NISTフレームワークに沿った要件になっていないものの、SMSで要求されている事項を定めているだけで実害はないことから賛成の日本回答を提出した。 2022年6月28日開催のISO/TC 8/WG 4会議において、ISO内のマネジメントシステム委員会であるマネジメントシステム・タスクフォースから、マネジメントシステム規格としてISO/IEC Directives Part 1の附属書SLに準拠させる必要が指摘され、TC 8幹事とISO中央事務局で対応を協議中であったが協議が終了した。	2022.12	-
TC 8	WG 10	ISO 23807:2023	Ships and marine technology — General requirements for the asynchronous ship-shore data communication	船舶及び海洋技術－非同期の船陸間データ伝送の一般要件	ISO19847で定める船内データサーバー等で収集した船上搭載機器及びシステムからのデータを、非同期で陸側と通信、共有するための要件(機能要件等)を取り纏めたもの【日本主導】。 この規格は、船上データサーバーから陸上データサーバーへの船舶間データ通信に関する以下の要件を取り纏めている。 <ul style="list-style-type: none"> •エンドツーエンドの通信品質を測定する方法 •非同期および同期通信 •トランスポートの整合性 •トランスポートセキュリティ(暗号化、認証、承認など) •データ送信の管理(優先順位付け、ログ記録、通信事業者の認識/管理など) •通信の最適化(重複排除、圧縮、再開、多重化など) •ISO19847を含むがこれに限定されないデータ通信プロトコルへの準拠 また、この文書は以下をカバーしていない。 <ul style="list-style-type: none"> •データプロデューサー/コンシューマーのセキュリティ(ID管理など) •通信機器の要件 •帯域幅や遅延などの性能要件 	2023.03	-
TC 8	WG 12	ISO/AWI 23817	Ships and marine technology — Ballast water management systems (BWMS)--Commissioning testing procedures for BWMS using electrolytic methods	船舶および海洋技術－バラスト水処理装置(BWMS)–電解法を使用したBWMSの試運転試験の手順	船舶への設置後に電解法を使用してバラスト水処理装置(BWMS)の試運転試験を行うためのガイドランスを取り纏めることを目的としている。【中国主導】 2023年11月1日を期限として行われたNP投票は、投票可決の要件を満たし、承認された。日本は、情報収集の観点から、棄権のうえ、専門家を登録する回答を行った。 現在、本ISO規格案に関心のある専門家間で、ウェブWG会議を開催し、規格を開発中。	WD作成中	-
TC 8	WG 10	ISO/TS 23860:2022	Ships and marine technology -- Vocabulary related to autonomous ship systems	船舶及び海洋技術－自律船舶システムに関する用語	この規格は、自動化システム自体及びその分類を含む、自動運航船(MASS)の自動化システムの運航過程に関連して、MASSの概念を記述するための専門用語を定義したもの【ノルウェー主導】。 この規格の開発情報をIMOに報告するため、ISOはIMO/MSC 101、102および103へISOとして文書を提出している。	2022.05	-
TC 8	WG 14	ISO 24438:2023	Ships and marine technology — Maritime education and training — Maritime career guide	船舶及び海洋技術－海事教育及び訓練－海事キャリアガイド	この文書は、ジェンダーによる区別なく、キャリアの拡大に寄与することを目的に、海事業界への就業に当たってどのような業務にどのような学習が必要であるのかをリストに纏めたもの。海事業界の仕事を下位の15の領域に区分し、各々の領域でどのような職業があり、その職に就くためにはどのようなキャリアが必要かをリスト化している。【パナマ主導】	2023.12	-
TC8	WG 4	ISO 28004-2:2014	Security management systems for the supply chain -- Guidelines for the implementation of ISO 28000 -- Part 2: Guidelines for adopting ISO 28000 for use in medium and small seaport operations	サプライチェーンのためのセキュリティマネジメントシステム－ISO 28000の実施のための指針－第2部:ISO 28000を中小港湾のオペレーションに適用するための指針	ISO 28000を中小港湾のオペレーションに適用するに際しての指針として自己認証基準を取り纏めるもの。	2014.02.01	-

TC8	WG4	ISO 28007-1:2015	Ships and marine technology -- Guidelines for Private Maritime Security Companies (PMSA) providing privately contracted armed security personnel (PCASP) on board ships (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術－民間武装警備員を供給する民間海上警備会社に関する指針(及び見積り契約書)	危険海域における海賊対策として乗船させる民間警備員を供給する民間海上警備会社が具備すべき事項を取り纏めたもの。BIMCOが作成した標準契約書を附属書Aとして添付している。※ISO 28007として作業が開始されたが、ISO 28007-2の作成作業開始に伴いISO28007-1に変更	2015.04.01	—
TC 8	WG 3	ISO 29400:2020	Ships and marine technology -- Offshore wind energy -- Ports and marine operations	船舶及び海洋技術－洋上風力エネルギー－港湾及び海洋での作業	鋼製基礎およびコンクリート製GBS (gravity base structure)、鋼製基礎パイル、サブシーテンプレート、風力タービン発電機の構成部品である鋼製タワー、ナセル、羽根等のオフショア構造物の港湾及び海上での作業に係る要求事項及び手引きを取り纏めたもの。この規格は、追加モジュールの搭載や構成部品の交換といった既設構造物の変更にも適用可能である。なお、この規格は海洋環境にさらされない陸上の建設作業、オフショア構造物の供用期間中の海上でのルーチン作業や潜水作業には適用できない。	2020.05	—
TC 8	WG 3	ISO 29404:2015	Ships and marine technology -- Offshore wind energy -- Logistics -- Supply Chain Information Flow	船舶及び海洋技術－洋上風力エネルギー－ロジスティクス－サプライチェーン情報フロー	洋上風力エネルギー施設の建設時又は保守時における構成部品のサプライヤーから建設サイトまでの物理的移動を制御するためのメッセージの内容及びフォーマットを取り纏めるもの。	2015.12.01	—
TC8	WG 6	ISO 30000:2009	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Specifications for management systems for safe and environmentally sound ship recycling facilities	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメントシステム－安全で環境に優しいシュップリサイクル施設のマネジメントシステムの仕様	国内基準及び国際基準に従って安全で環境に優しいシュップリサイクル作業を実施するために必要な船舶のリサイクルマネジメントシステムの一連の手順、ポリシー及び目的についての要求事項を取り纏めたもの。	2009.03.15	—
TC8	WG 6	ISO 30002:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for selection of ship recyclers (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメントシステム－シュップリサイクル事業者選定のための指針(及び見積り契約書)	船舶所有者に対するシュップリサイクル施設選定の際の選定プロセスや契約フォーマット等の指針について取り纏めたもの。	2012.06.15	—
TC 8	WG 6	ISO/AWI 30002	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for selection of ship recyclers (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメントシステム－シュップリサイクル事業者選定のための指針(及び見積り契約書)	IMO関連ガイドラインとの整合を図る目的のもと、2023年9月開催のISO/TC 8総会で改訂として決議された。【日本主導】	AWIとして登録 2023.09.29	
TC8	WG 6	ISO 30003:2009	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Requirements for bodies providing audit and certification of ship recycling management	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメントシステム－シュップリサイクルマネジメントシステムの監査及び認証を行う団体の要件	ISO30000の規定に沿ったシュップリサイクルマネジメントシステムに係る監査及び認証業務を行う組織・団体への原則及び要求事項を取り纏めたもの。	2009.10.01.	—
TC8	WG 6	ISO 30004:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for the implementation of ISO 30000	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメントシステム－ISO 30000の実施のための指針	ISO 30000の原理・原則を解説するとともに各要求項目の趣旨、典型的インプット、プロセスと典型的アウトプットについて記述し、ISO 30000の包括的な指針を取り纏めたもの。	2012.07.15.	—
TC8	WG 6	ISO 30005:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Information control for hazardous materials in the manufacturing chain of shipbuilding and ship operations	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメントシステム－造船の製造チェーン及び船舶運航時における有害物質の情報管理	シュップリサイクル条約の規定に適合した有効かつ標準化された矛盾のない方法で有害物質に係る情報を管理、伝達、維持するための指針について取り纏めたもの。	2012.05.15.	—
TC 8	WG 6	ISO 30005	Ships and marine technology -- Ship recycling management -- Information control for hazardous materials in the manufacturing chain of shipbuilding and ship operations	船舶及び海洋技術－シュップリサイクルマネジメント－造船の製造チェーン及び船舶運航時における有害物質の情報管理	有害物質のインベントリ開発に関するガイドラインIMO Resolution MEPC. 269(68)との整合を目的とした改訂【中国主導】。 2012年版との改訂点は上記の反映を規格全体に施したほか、ISO中央事務局指摘に基づき、マネジメントシステム規格ではないことを明確にするため、規格名称から「System」を削除している。	DIS投票承認 2023.11.01	
TC8	WG 6	ISO 30006:2010	Ship recycling management systems - Diagrams to show the location of hazardous materials onboard ships	シュップリサイクルマネジメントシステム－船上に存在する有害物質の場所を示す図表	シュップリサイクル条約で義務付けられている有害物質一覧表(インベントリ)に関するシュップリサイクル業者の理解を助けることとなる船上に存在する有害物質の場所を示す図表に係る要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】	2010.12.15.	—

TC8	WG 6	ISO/AWI 30006	Ship recycling management systems - - Diagrams to show the location of hazardous materials onboard ships	シップリサイクルマネジメントシステム - 船上に存在する有害物質の場所 を示す図表	IMO関連ガイドラインとの整合を図る目的のもと、2023年9月開催のISO/TC 8総会で改訂として 決議された。【日本主導】	AWIとして登録 2023.09.29	
TC8	WG 6	ISO 30007:2010	Ships and marine technology -- Measures to prevent asbestos emission and exposure during ship recycling	船舶及び海洋技術－シップリサイク ル時のアスベスト飛散と曝露防止対 策	シップサイクルの際に船舶に使用されているアスベストの発じんを抑制して、一般環境への飛散 及び作業者の暴露を防ぐための有効な方法について取り纏めたもの。【日本主導】	2010.12.01.	-